

交通安全のポイント

令和3年8月17日
福島県警察本部

1 交通事故発生状況（8月16日現在の概数）

※（ ）は前年同期比

発生件数	死者数	高齢者	けが人数
1,785件 (-244件)	27人 (-4人)	13人 (-2人)	2,063人 (-342人)

2 第1回反射材用品等着用実態調査結果

(1) 調査日時

令和3年7月26日（月）から同年7月30日（金）までの間
（各日午後7時から午後8時までの1時間）

(2) 調査対象

65歳以上の高齢歩行者（770人）

(3) 調査場所

「令和3年度歩行者セーフティ『ピカッと・守るふくしま運動』」で各警察署・各分庁舎が選定した反射材用品等着用推進モデル地区において、スーパー・コンビニエンスストア等の商業施設やバス停留所、住宅街など、高齢歩行者が通行する機会の多い道路を選定の上、反射材用品等の着用実態を調査しました。

(4) 調査方法

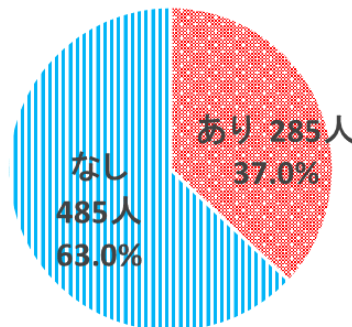
反射タスキや反射シール等反射材用品のほか、反射材付の靴等あらかじめ反射材が組み込まれた衣服や懐中電灯など反射材用品等の着用実態を調査しました。

(5) 調査結果

ア 着用状況

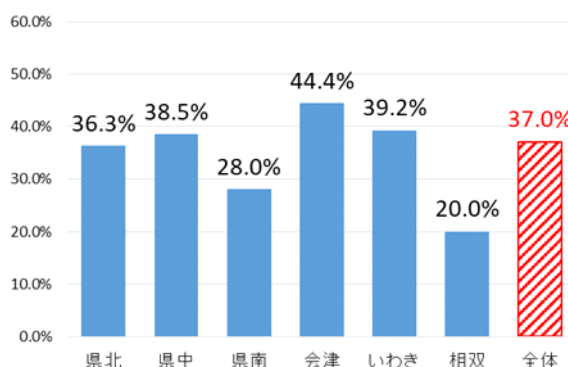
770人中285人着用
（着用率37.0%）

着用状況



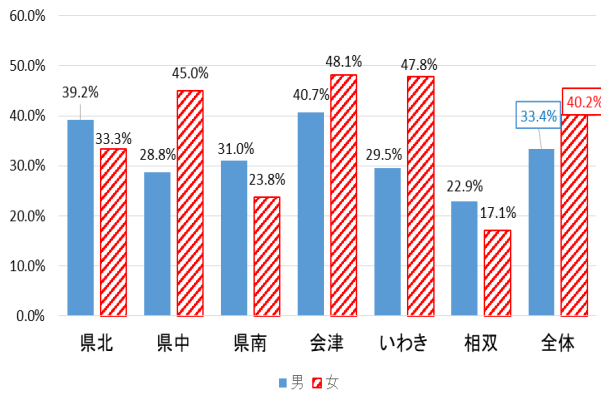
イ 反射材用品等着用率

(ア) 方部別着用率



※ 方部別の着用率の特徴
「会津」が高く「県南」
「相双」が低い。

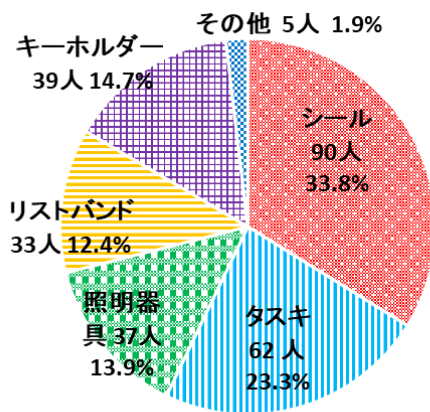
(イ) 方部別着用率



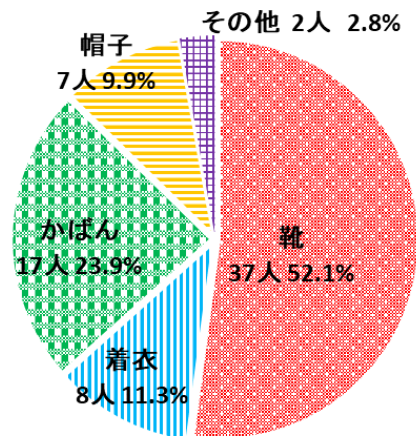
※ 男女別着用率の特徴

県全体の着用率は、女性の着用率が男性より高い。
 県中、いわきでは女性が男性を大きく上回っている。

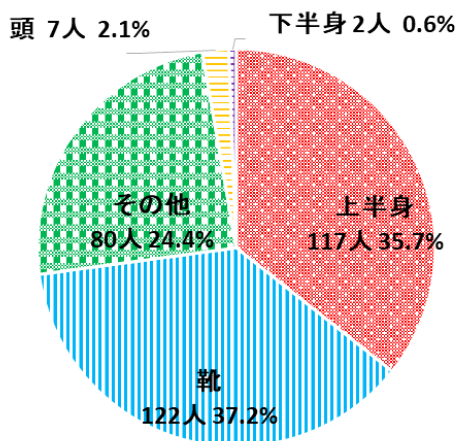
ウ 反射材用品等の種類



エ 反射材組込用品



オ 反射材用品等の着用箇所



カ 反射材用品等着用状況（男女別）

(ア) 反射材用品（男女別）

反射材用品	男	女	計
シール	37	53	90
タスキ	34	23	62
照明器具	18	19	37
リストバンド	12	21	33
キーホルダー	6	33	39
その他	3	2	5

※ 反射材用品の男女別の特徴

男女ともシールとタスキで過半数を超えている。

女性ではキーホルダーが2割を超えているが、男性では1割にも満たない。

(イ) 反射材組込用品（男女別）

反射材組込用品	男	女	計
靴	21	16	37
着衣	7	1	8
かばん	4	13	17
帽子	3	4	7
傘	0	1	1
その他	0	2	2

※ 反射材組込用品の男女別の特徴

男女とも靴が最も多い。

男性は着衣が2割を占めているが、女性はわずかである。

女性のかばんが3割を超えているが、男性では1割程度となっている。

※ 本調査結果詳細は、県警ホームページで公開する予定です。